

ロジスティクス環境会議
第3回広報・普及専門委員会

2004年8月31日(火)10:00～12:00
芝パークホテル 別館2F アゼリア

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) ニュース、ジャーナルについて
- 2) シンポジウムについて
- 3) その他

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : ニュースとジャーナルの基本的な枠組み
資料2 : シンポジウムのプログラム (案)
参考資料1 : CGLジャーナル 発行計画 (案)
参考資料2 : 第2回広報・普及専門委員会 議事録
参考資料3 : 第4回企画運営委員会 議事録
参考資料4 : 各委員会の活動状況一覧

以 上

ニュースとジャーナルの基本的な枠組み（案）

【ニュースとジャーナルの発行の基本的な考え方】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースとジャーナルは、CGLメンバーを主な対象として、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やすための情報提供を行う。 ・企画及び編集については、広報・普及専門委員会にて行う。 		
分 類	ニュース	ジャーナル
名 称	CGL NEWS	CGL JOURNAL
対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会の登録メンバー（実務担当者） ・137名 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録メンバーの役員、部長クラス（代表登録者） ・125名（オブザーバー、特別メンバー含）
編集方針	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動内を定期的に把握するための情報発進 ・把握しておくべき行政（団体）関係の動向の情報収集・発信 ※上記の情報発信は速報性を重視する 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動内を定期的に把握するための情報発進 ・他業界の動向や国際動向を把握するための情報収集・発信 ※業界的視点でわかりやすく解説する
発行頻度	原則1ヶ月1回 ※情報発信すべき内容がある場合は都度発行	4ヶ月1回（3回/年）
容 量	A4版1枚程度	A4版4枚程度
媒 体	電子メール	冊子
企画・編集 と作成	広報・普及専門委員会、事務局	広報・普及専門委員会、事務局 編集アドバイザー：鈴木邦成氏(文化女子大学)、他
基本構成	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境会議の活動状況⇒ホームページ情報の確認 2.行政（団体）機関の施策動向 <ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省、その他（関係団体含） 3.その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境会議の活動状況 2.関係機関（団体）、国際、技術開発等の動向 <ul style="list-style-type: none"> ・関係行政機関の施策動向 ・関連団体の活動状況 ・海外の関係機関等の国際動向 ・関連技術開発の動向 ⇒上記からテーマを1～2つ程度選択し、掲載する。 3.その他
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースとジャーナルは発行後、ホームページに掲載する(PDFファイル等) ・関連法規の更新等の情報提供⇒企画運営委員会にて出された要望 	

ロジスティクス環境会議
第1回シンポジウム プログラム(案)

1. 目的:

- 1) ロジスティクス環境会議(以下、CGL)の活動内容(状況)と成果を広く知らしめる。
- 2) 効果的に環境負荷低減を実現する考え方やツールを広く産業界に投げかけ、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。
- 3) 民間企業だけでは解決できない課題については、関係各省等に対して投げかけを行う。

2. 概要:

■日時: 2004年12月17日(金) 13:30~17:30

■会場: 経団連ホール

■参加料金: CGLメンバー: 2,000円、その他: 5,000円

※環境活動に取り組む企業を増やすため、CGLメンバーから取引先、協力会社等の方々へ積極的な参加動員のご協力をお願いいたします。

※CGLメンバーからご紹介いただいた方は、メンバー料金にて対応させていただきます。

※参加料金は税込みの金額です。

■参加人数: 400名(予定) ※経団連ホール最大収容人数: 470名

■後援: 経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省(申請予定)

■協賛: 日本経済新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK(申請予定)

■プログラム構成 A案:

13:30~13:35 (5分)	開 会 「主催者挨拶」 杉山 武彦 氏 ロジスティクス環境会議 企画運営委員会 委員長 一橋大学 副学長
13:35~14:20 (45分)	基調講演:「環境対応と経営革新」先進企業の経営トップ層 例:江村 祐輔 氏 キヤノン(株) 常務取締役 グローバル環境推進本部長
14:20~14:50 (30分)	「ロジスティクス分野における環境負荷削減に向けた展開と課題」 ～環境パフォーマンスの視点から～ 増井 忠幸 氏 ロジスティクス環境会議 環境パフォーマンス評価手法検討委員会 委員長 武蔵工業大学 環境情報学科 教授
14:50~15:10	休 憩
15:10~16:40 (90分)	【パネルディスカッション】 「荷主企業と物流企業の連携による環境負荷削減に向けた現状と課題」 ・各企業と企業間にわたる課題 (源流管理、共同物流、モーダルシフト、リバース等) ・環境活動の評価尺度と測定 ■司会進行:増井 忠幸氏 (武蔵工業大学) ■パネラー:荷主企業2社 (三菱電機(株)、松下電器産業(株)、など) 物流企業2社 (第一貨物(株)、日本通運(株)、など) 物流子会社1社 (NECロジスティクス(株)、リコロジスティクス(株)、など)
16:40~17:00 (20分)	「ロジスティクス環境会議の活動紹介」小西 俊次 氏 ロジスティクス環境会議 広報・普及専門委員会 委員長 愛知陸運(株) 常務取締役
	閉 会

■プログラム構成 B案：

13:30~13:35 (5分)	開会 「主催者挨拶」 杉山 武彦 氏 ロジスティクス環境会議 企画運営委員会 委員長 一橋大学 副学長
13:35~14:20 (45分)	基調講演：「環境対応と経営革新」先進企業の経営トップ層 例：江村 祐輔 氏 キヤノン(株) 常務取締役 グローバル環境推進本部長
14:20~14:50 (30分)	「ロジスティクス分野における環境負荷削減に向けた展開と課題」 ～環境パフォーマンスの視点から～ 増井 忠幸 氏 ロジスティクス環境会議 環境パフォーマンス評価手法検討委員会 委員長 武蔵工業大学 環境情報学科 教授
14:50~15:10	休憩
15:10~16:40 (90分)	【パネルディスカッション】 「荷主企業と物流企業の連携による環境負荷削減に向けた現状と課題」 ・各企業と企業間にわたる課題（源流管理、共同物流、モーダルシフト、リバース等） ・環境活動の評価尺度と測定 ■司会進行：増井 忠幸氏（武蔵工業大学／環境パフォーマンス評価手法検討委員会） ■パネラー：源流管理による環境改善委員会 委員長又は副委員長 省資源ロジスティクス推進委員会 委員長又は副委員長 リバースロジスティクス調査委員会 委員長又は副委員長
16:40~17:00 (20分)	「ロジスティクス環境会議の活動紹介」 ロジスティクス環境会議 広報・普及専門委員会 副委員長
	閉会

CGL JOURNAL 発行計画(案)

発行号	委員会活動状況	テーマ2	用語解説	備考
第1号 2004年9月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	行政動向 ※地球温暖化対策推進大綱の見直し	共通基盤整備委員会による検討	
第2号 2005年1月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	業界団体動向 ※主な業界団体の活動状況	共通基盤整備委員会による検討	
第3号 2005年4月下旬	第3回本会議	国際動向 ※CO ₂ 排出権取引をめぐる日米欧の動向	共通基盤整備委員会による検討	
第4号 2005年8月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	行政動向 ※地球温暖化対策推進大綱 見直し後のフォロー 又は、新物流施策大綱の見直し	共通基盤整備委員会による検討	
第5号 2005年1月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	業界団体動向 ※主な業界団体の活動状況	共通基盤整備委員会による検討	
第6号(最終) 2006年3月	第4回本会議	トップ対談 議長、副議長、行政		

ロジスティクス環境会議
第4回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2004年8月24日（火） 17：00～19：00

II. 場 所：東京・港区（社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：23名

IV. 内 容：

- 1) 各委員会の活動状況について
- 2) 広報・普及専門委員会の活動について

V. 開 会

杉山委員長の挨拶にて、第4回企画運営委員会の開会がなされ、杉山委員長の司会進行のもと、以下のような内容が検討された。

VI. 経過報告／各委員会の今後の活動概要について【資料1】

各委員会の委員長より、資料1に基づき、各委員会の活動状況の説明が行われた。

- (1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会／増井委員長
- (2) 源流管理による環境改善委員会 ／小西委員長
- (3) 省資源ロジスティクス推進委員会 ／山本委員長
- (4) リバースロジスティクス調査委員会 ／菅田委員長
- (5) 共通基盤整備委員会 ／津久井委員長

また、全委員会の説明終了後、以下のような意見交換がなされた。

委 員：全体を把握している事務局がチェックし、各委員会のアウトプットが有機的に相乗効果が出るように、軌道修正すべき点があればうまくリードして欲しい。

委 員：リバース分野の現状、あるべき姿、改善策等をまとめているが、参加メンバーの参加意識の温度差や報告書作成などは慣れていない方が多いため苦勞している。

委 員：他委員会でも参加意識の異なるメンバーをまとめるのは難しい。早い段階でアウトプットの頭だしを行い、ゴールイメージの議論を行う必要があるのではないか。

委 員：アウトプットについては、体裁や形式を整えることよりも、各メンバーが会社に持ち帰って活用できるものを作ることが望ましいのではないかと。

VII. 議 事

杉山委員長の司会進行のもと、以下のとおり議事が進められた。

1) 広報・普及専門委員会の活動について

8月5日（木）に開催された第2回広報・普及専門委員会にて検討された内容について、以下のとおり議案として検討がなれた。

(1)ニュース・ジャーナルについて

(1)ニュースとジャーナルについて【資料2】

事務局より、資料2に基づき説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【ニュースについて】

委員：速報性を意識したものにするべきではないか。頻度は少なくとも1ヶ月1回程度発信しないと、受取るメンバーも関心を示さないのではないか。

委員：法令や標準化に関する項目が無いが、環境会議としてウォッチすることは必要ではないか。法令については、改正されてなかったことを発信することも実務担当者にとっては重要なニュースになる。

委員：ホームページにジャーナルをPDFファイルで載せるとなっているが、ニュースも同様にホームページにも載せて欲しい。

【ジャーナルについて】

委員：新聞やその他雑誌等で取上げられていることは、必要ないのではないか。差別化した内容を検討して欲しい。

委員：委員会の活動内容を中心に掲載し、会社側にどのような活動を行っているか知らせたい。

委員：委員会の内容も大切であるが、幅広い枠組みで検討するべきではないか。自分達の属する業界だけではなく、異なる業界の動向等を知ることも重要ではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、8月31日（火）に行う第3回広報・普及専門委員会で再度検討することが確認された。

(2)シンポジウムについて【資料3】

事務局より、資料3に基づき、シンポジウムのプログラムについては、事務局原案であり、詳細については第3回広報・普及専門委員会で検討を行うこととし、開催の概要を中心に意見をいただきたい旨の説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

委員：パネルディスカッションのパネラーとして、経済産業省、国土交通省に加え、環境省にも出してもらった方が良いのではないか。環境省が出している環境パフォーマンス指標ガイドラインについても聞いてみたい。

委員：内容がCO₂に偏り過ぎるのではないか。CO₂以外も範囲に入れる方向で検討した方が良いのではないか。

委員：誰に対するメッセージなのか、明確にする必要があるのではないか。

以上のような意見交換の後、広報・普及専門委員会の小西委員長より、シンポジウムに参加した方が、何か得るものがあるような内容にしたい。そのために、シンポジウムで取上げるべきテーマや、内容について、是非意見をいただきたい旨の依頼がなされた。

また、シンポジウムについては、日程を含め、8月31日（火）に行う第3回広報・普及専門委員会で再度検討することが確認された。

(3)オブザーバー会議について【資料4】

事務局より、資料4に基づき、オブザーバー会議については、提言をその場で投げかけるのではなく、提言に至る課題等が見えた段階で、気軽に意見交換ができる場とするため、9月頃に予定されていた第1回目の会合は延期することとし、名称についても再度検討したい旨の説明が行われ、前会一致にて承認がなされた。

(4)パブリックコメントに対する対応について【資料5】

事務局より、資料5に基づき、関係各省からパブリックコメントが出された場合、締切りまでの期間も短いことから組織的な対応が難しいため、環境会議として対応すべき重要なテーマを除き、パブリックコメントが出された事実を『CGL NEWS』等を通じて、環境会議メンバーに情報発信したい旨の説明が行われ、全会一致にて承認がなされた。

但し、関係各省から環境会議の活動が一目置かれる状況になれば、パブリックコメントを発信する事前に投げかけられるはずであり、環境会議がそのような存在になるよう更に活動を充実させていくことが確認された。

VIII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以 上

ロジスティクス環境会議
第2回 広報・普及専門委員会 議事録

I. 日 時：2004年8月5日（木） 15：00～17：00

II. 場 所：東京・港区（社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：10名

IV. 議 案：

- 1) ニュース、ジャーナルについて
- 2) シンポジウム等の開催について
- 3) 行政動向とその対応について
- 4) オブザーバー会議について

V. 開 会

定刻、小西委員長より、開会が宣された。

VI. 報 告【資料1】

事務局より、資料1に基づき、各委員会の活動状況の報告が行われた。

VI. 議事の経過

1. 議 事

小西委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) ニュース、ジャーナルについて【資料2-1、2-2】

事務局より、資料に基づき、ニュース、ジャーナルの原案の説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

【委 員】ニュースの発行頻度は2ヶ月に1回となっているが、それ以外には発信しないのか。

【事務局】2ヶ月に1回というのは、原則であり、発信すべき内容があるときには、臨時にその都度発信したい。

【委 員】ニュース、ジャーナル共に、目的や対象等を明確にした方が良い。

【委 員】第1号の原案の内容については、簡略的になり過ぎているため、概要をもう少し詳しく書いた方が良いのではないかと。

【委 員】ジャーナルの作成者が一人になっているが、作成者の考え方に偏りができるのではないかと。

【事務局】広報・普及専門委員会の委員の方々にも執筆をお願いしたいところであるが、執筆者の負担が重くなると考えている。鈴木先生以外にも適当な方がいらっしゃれば、事務局に紹介いただきたい。また、内容に偏りが出ないようにするためにも、原稿の確認を広報・普及専門委員会メンバーをお願いしたいと考えている。

【委員】ニュースの原案、ジャーナルの原稿等の確認で委員にメールを流す場合は、他委員のコメントも把握できた方がいいため、配信方法はBCCではなく、配信先が配信者にわかるようにして欲しい。

以上のような意見交換を踏まえ、目的、編集方針等を事務局にて整理したうえで、ニュース、ジャーナルの原案（原稿）を作成し、広報・普及専門委員メンバーにメールにて確認し、作業を進めることが確認された。

※ニュース、ジャーナル共に作成の流れについては、資料のとおり行うこととし、ニュース原案、ジャーナル原稿をメールにて委員送信する際は、配信先が配信者にわかるようにする。

2) シンポジウム等の企画について【資料3】

事務局より、資料に基づき、シンポジウムの企画案について説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

【委員】環境会議のメンバー以外にも、広く情報発信することが当委員会の大きなミッションであるとい認識している。シンポジウムの規模は500名程度を考え、参加料も高額にならないようにするべきではないか。

【委員】B案をベースに企画を再度検討して欲しい。現状では、海外の動向よりも、国内企業の事例を増やして欲しい。また、B案に関係各省と環境会議の内容紹介を加えても良いのではないか。

【委員】プログラムとしては、午後半日くらいが良いのではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、開催時期も含めて事務局にて企画を再検討し、広報・普及専門委員会のメンバーにメールにて確認いただき、意見等を整理したうえで、第3回企画運営委員会に諮ることが確認された。

3) 行政動向とその対応について【資料4】

事務局より、資料に基づき、パブリックコメントとグリーン物流パートナーシップ会議に関する説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

(1) パブリックコメントに対する対応

【主な意見交換の内容】

【委員】パブリックコメントについては、関係各省のホームページに掲載されてから締切り期日まで非常に時間が短いため、組織的な対応は難しいのではないか。

【委員】広報・普及専門委員会としては、パブリックコメントが出されたことをメンバーに情報発信するというスタンスで良いのではないか。

【委員】重要度が高いものについては、広報・普及専門委員会および企画運営委員会として検討する場を緊急に設け、対応すれば良いのではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、パブリックコメントについては、以下のような対応することが確認され、第3回企画運営委員会に諮ること確認された。

- ①原則として、パブリックコメントが出されたことは環境会議メンバーにCGLニュースで情報発信する。
- ②関係各省から出されたパブリックコメントは、先ず、広報・普及専門委員会のメンバーにて、その内容を確認し、重要度が高いものについては、企画運営委員会を緊急に開催し、対応を検討する。

(2) グリーン物流パートナーシップ会議に対する対応

【主な意見交換の内容】

- 【委員】グリーン物流パートナーシップ会議（以下、パートナーシップ会議）の趣旨は理解できるが、環境会議と同じような会議体を他に設けるとするのは、参加する企業としては困る。
- 【委員】1,400万トンの削減目標が記載されているが、その数値目標が産業界に対して義務化されることは反対である。
- 【委員】万が一、数値目標が義務されるような場合は、数値目標を達成した企業に対して、表彰や減税等のメリットが享受できる仕組みを検討するべきではないか。
- 【委員】数値目標については、環境会議等で産業界として自主的に目標を定めるのであれば、尊重していきたいと考えている。

以上のような意見交換を踏まえ、パートナーシップ会議については、広報・普及専門委員会で結論を出すテーマでないため、第3回企画運営委員会の場合にて、改めて検討を行うことが確認された。

4) オブザーバー会議の企画（案）について【資料5】

事務局より、資料に基づき、オブザーバー会議の企画（案）について説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

- 【委員】オブザーバー会議については、産業界として実現したいことを、関係各省と意見交換を重ね、産業界と行政が共に作り上げる場にしていくことが必要ではないか。
- 【委員】産業界の意向を行政側に負担にならないような形で投げかけができるようにすることがポイントではないか。
- 【委員】産業界、環境会議としての結論に至る前の段階でも、現時点で抱えている問題や課題を気軽に行政に伝えることができるような場にしていきたい。
- 【委員】産業界と行政が垣根の無い環境を作るためにも、先ずは事務局が定期的にオブザーバーの関係各省に足を運ぶことが必要ではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、9月下旬とされているオブザーバー会議については、延期とすることが確認された。各委員会の活動状況を見て、課題等を整理したうえで、オブザーバー会議の企画を再度検討することとし、それまでは、事務局を中心にオブザーバーの関係各省に足を運び、活動状況等を報告しながらコミュニケーションを図るようすることが確認された。

5) その他

今後のスケジュールについて

次回委員会は、以下のとおり開始することが確認された。

■第3回広報・普及専門委員会

日 時：8月31日（火）10－12時

会 場：未定

2. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以 上

環境会議の目的、目標と各委員会の活動状況について

1. 環境会議の方針

- 1) 目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築 ～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～
 2) 目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

2. 各委員会の活動方針と成果

活動方針	2004年度活動内容	活動状況
1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会	1) ロジスティクス活動の環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携し、標準的な環境パフォーマンスを整備する。 2) 標準的な環境パフォーマンスを広く公開し、関係者に提案する。	アウトプット：データ収集方法ガイド(10月) これから算定したいと考えている企業に対して、算定のために必要なデータおよびその収集方法について、既に算定している企業から抽出、整理し、データ収集方法ガイド(事例集)としてまとめる。
2) 源流管理による環境改善委員会	1) 循環型社会に対応する企業の社会的責任として、企業間に渡るロジスティクスの視点から荷主企業の物流・ロジスティクス部門、物流企業として実施すべき事項を検討し、合意形成を図る。 2) 合意された内容はマニュアル形式にまとめ、広く公開し、関係者の環境活動を支援する。	アウトプット：源流管理マニュアル(9月) 荷主企業の物流部門並びに物流企業としてやるべきこと及び対策についてまとめる。 ※荷主企業の物流部門から他部門に関する事等は次のステップでまとめる。
3) 省資源ロジスティクス推進委員会	1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その結核を関係者に公開する。 2) 課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。	アウトプット：企業(間)の各種物流施策の事例集(10月) 荷主企業、物流企業の夫々の立場から共同化、モーダルシフト等の事例集の材料を収集し、整理する。 ※課題等も併せて収集し、次のアウトプットであるガイドラインの頭だしも行う。
4) リバースロジスティクス調査委員会	1) ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。 2) 消費者における源流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う。	アウトプット：調査報告書(2005年3月) 複数の製品を選定した後、以下のフローで調査し、まとめる。 1.現状 2.あるべき姿 3.改善策 4.提言
5) 共通基盤整備委員会	環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、アウトプットは原則全て公開する。	アウトプット： 1) 環境に関する用語集(4月) 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集(7月より)